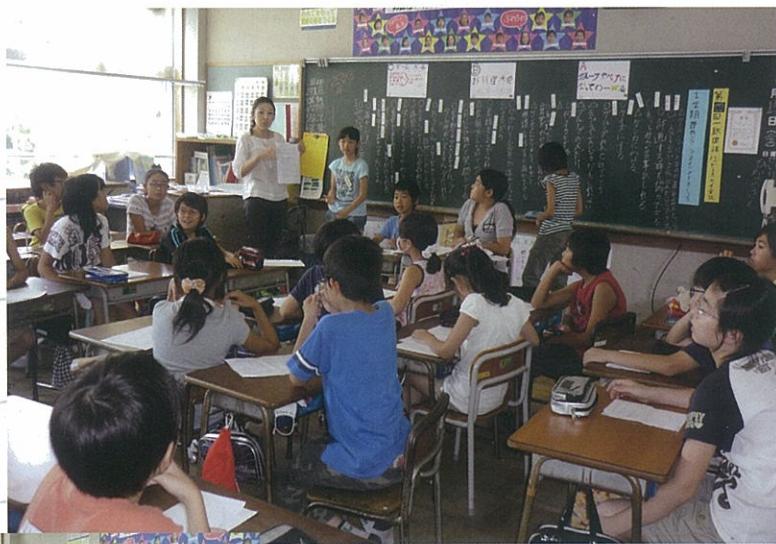


## 修了生からの お便り



# 書くことを通して 自己と向き合う、 そして教育と向き合う

小学校の学級担任を13年経験し、再び  
学ぶ機会を得ました。気付くと中堅と呼ば  
れるようになつていきましたが、あまり  
自覚がもてず、このままいいのかとい  
う不安や焦りの方が大きかつたように思  
います。そこで、もっと教員としての専  
門性や力量を高め、自己の変化や変革が  
必要だと感じ、大学院へ進学することを  
決意しました。

橋本定男先生の研究室に所属し、2年  
間、学級活動話合いの研究に没頭しまし  
たが、研究は容易なものではありません  
でした。理論と実践の間に溝の大き  
さ、話合い実践をどうとらえれば研究に  
なるのかという大きな問いに、悩み、模  
索し続けたのです。しかし、現職教員と  
しての自分にできる研究とは何かを考え  
た時、あくまでも実践者として、これか  
らの教育実践に生きる研究でありたいと  
いう答えに行き着きました。そして、先  
行研究から分析枠組みを導き出すことが  
まとめることができたのです。もちろん  
そこには、橋本先生をはじめ、ゼミの仲  
間の協力があつたことは言うまでもあり  
ません。



岩島 亜紀子  
(いわしま あきこ)

新潟県現職派遣教員として、平成21年4月から上越教育大学大学院学校臨床研究コース生徒指導総合科目群に在籍し、平成23年3月に修了。橋本定男研究室で特別活動を専攻し、学級活動話合いをテーマに修士論文を執筆。現在は、上越市立春日新田小学校に勤務し、6年生の学級担任と特別活動主任、研究副主任を担当している。

得ることができました。

また、大学院の授業では、多くの文献に  
ふれて知識を広げたり、議論したりする経  
験も積み、現場では得難い学びの楽しさを  
味わうことができました。  
現在は、学級担任として話合い実践に取  
り組むとともに、研究副主任という立場か  
ら、自校の教育課題である学級づくりの研  
究を推進しています。学年の協働関係の構  
築や、個々の学級づくりの成果・課題を共  
有し合う場の設定など、大学院で学び得た  
視点が大いに役立っています。多くの方々  
の温かいご指導に感謝し、今後も自覚を  
もつて教育に取り組んでいきたいと考えて  
います。